

さくら学級交流会 ー共に学び共に育つ 仲間とともにー

柏原市立国分中学校 支援学級担任 田上淳子

1、はじめに

本校の支援学級は、クラスでの生活をベースとしている。地元の公立学校で友達と学んでほしい、学びたいという保護者・本人の思いを大切にして取り組んでいる。在籍している支援学級生は学習面、コミュニケーション面等での苦手さから消極的になってしまうことが多い。しかし本当はみんなとうまく関わりたい、自分のいいところを伸ばしたいという思いを持っている。短所より長所、できないことよりできていること、苦手より得意な面を伸ばすことを支援の方針としている。支援学級の少人数の関わりの中で、それぞれの個性や良さが生きることを願い、取組みをすすめている。

2、実践 さくら交流会の開催

(1)目的

クラスでの生活をベースにしており、各生徒の支援の授業時間を支援学級で学習を行うが、時間がそれぞれ違う。支援学級生が全員集まったの合科の時間の調整が難しい。支援学級生どうしが一緒に交流する機会をどのように持つかが学級としての課題であった。

そこで、定期テスト終了日の午後は、全員が集まれる時間が取れるので、交流会を設定することにした。少人数の関わりの中で、コミュニケーションや自分の思いや個性が出せる場の設定と個々の生徒の成長をねらいとして計画を行った。

(2)方法

a. 実施の時期 年間5回 定期テスト最終日午後に行う。 1時間半ほど

○さくら学級の交流会の計画、主な行事予定と関係して実施

4月 学級開き 家庭訪問

5月 中間テスト後さくら交流会①

6月 柏原市支援スポーツ大会

- ・学級目標決め
- ・柏原市スポーツ大会の練習(卓球)

6月末 期末テスト後さくら交流会②

- ・スポーツ大会の練習
- ・七夕短冊に願い事

7～8月 さくら夏休み学習会&交流会

10月 2学期中間テストさくら交流会③

11月 中河内支援学級スポーツ大会

・送る会演目練習
・中河内スポーツ大会
の練習（卓球）

11月末 2学期期末テストさくら交流会④

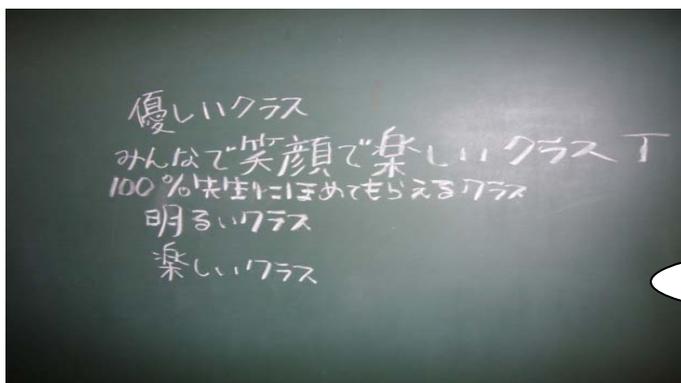
12月 支援学級卒業生を送る会、

2月 柏原市支援作品展

・送る会の練習、
リハーサル

3月 学年末テストさくら交流会⑤&送る会

3年生送る会
メッセージ交流と
特技発表会



学級目標も決めました

b. さくら交流会の内容と方法

実施にあたり留意していることは次のようなことである。

○さくら交流会の案内

さくら交流会の案内を生徒と教職員にも配布し、先生方にも参加を呼び掛けている。

○年間を通じての実施

定期テストごとに実施する。年五回。定期的にすることで、交流する機会の確保と行事に向けての取組みを行っている。

○教職員への呼び掛け

生徒の様子や発表の頑張りを見て、交流する場となっている。校長先生や学年の先生からの声かけは子ども達に「学校の先生たちみんなに応援してもらっている」という安心感が生まれる。また校内でも、交流会をきっかけとして多くの先生からの声かけは子ども達の成長につながっている。教職員の支援教育

に対する理解の推進のために呼びかけを行っている。

○支援の行事の取組みの場

年間行われる柏原市や中河内の支援行事の取組みを行っている。卓球大会に向けた卓球練習、送る会の舞台発表の演奏練習に取り組んでいる。

○個々の生徒の表現、発表の場の設定

ただの交流会ではなく、生徒に一言ずつ発表する場となっている。それまでの振り返りとこれからの目標を自分の言葉で話す。発表が苦手な生徒も多いが、少人数の前で発表をすることで発表の練習となり、人前での発表にも慣れ、クラスの活動等につなげることをねらいとしている。

○個性や良さを出せる場としての設定

クラスとは違う関係の中で、自分の思いを出せる場になるよう配慮をしている。

さくら交流の
案内

さくら2学期中間交流会

日時：2017年10月18日（水） 中間テスト2日目

給食、学活、掃除終了後1時30分頃～3時00頃

1. 場所：さくら①教室集合 →さくら③教室へ（卓球時移動）

2. プログラム

① 初めのあいさつ、 司会（ ）5分

② 一言ずつ 前期を振り返っての感想&後期の目標

③ 中河内スポーツ大会11月2日について 連絡

④ 送る会について ・送る言葉1，2年生より（ ）

トーンチャイム練習、手話コーラス練習

⑤ 卓球練習（さくら③に移動）

4. 準備、役割分担

教室準備 司会、計画、準備（ ） 集合、卓球（ ） 手話コーラス、写真（ ）

5. その他

スポーツ大会に参加しなくても、顔合わせの交流ができたらと思っています。

クラブや用事等で途中までの参加もOKです。

*（さくら担任）早めに全員に声掛けをお願いします。

先生方へ

*先生方もお時間がつくようでしたら、交流会へどうぞお越し下さい。

子どもたちに声かけや卓球を一緒にしていただければ幸いです。

3. さくら交流会の成果と考察

①皆の前での発表（表現）になれ、自信につながっていった

一言ずつ発表する場で、それまでの振り返りとこれからの目標や願い等を皆の前で発表をした。1学期の期末交流会なら、1学期を振り返っての感想と夏休みの目標発表をした。発表が苦手な生徒たちも、最初は一言だったり、小さい声だったりしても、発表できるようになってきている。中には、「私がみんなに言いたいことは3つある。1つ目は……」と分かりやすく工夫し発表する先輩の姿。皆に称賛の言葉をもらい自信になっているようであった。またそんな先輩の言葉を聞いて、また参考にし、工夫して言葉も増え内容も深まってきている。

②仲間の頑張りを応援する雰囲気

皆で聴く姿勢を大切にしている。発表できたら拍手をし、仲間の頑張りを応援する温かい雰囲気ができてきた。

③支援の行事に向けての取り組み 皆で取り組む喜び

皆で取り組むことで、自然と会話や先輩後輩の関係が生まれている。12月に行われる柏原市支援学級送る会に向けて演目手話コーラスで「世界に一つだけの花」やトーンチャイム演奏「さんぽ」の練習に取り組んでいる。それぞれの部分を責任を持って取り組み、初めはうまくいかなかったが、練習を重ねるにつれ曲としてつながり、作品になってきている喜びが感じられた。

④教職員の理解の推進

交流会に参加し、発表を見たり、一緒に卓球をしたりすることで、子ども達とつながりができ校内で声をかけてもらう機会が増えている。先生方も支援教育の理解、推進につながっている。

⑤個性の開花

さくら交流会での発表する機会を励みに、生徒達も練習に頑張っ取り組んできた。これまで、ダンスや、キーボード等で見事な発表を見せてくれた生徒もいて、豊かな個性や才能が見られた。

⑥さくら生の公表

公表できるように学校として取り組んでいこうとしているところである。できる生徒から公表し、集会でのスポーツ大会での表彰、集会での演奏など取り組みを少しずつ増やしているところである。全校集会の場で送る会の演目の演奏にチャレンジしてみようと考えている。

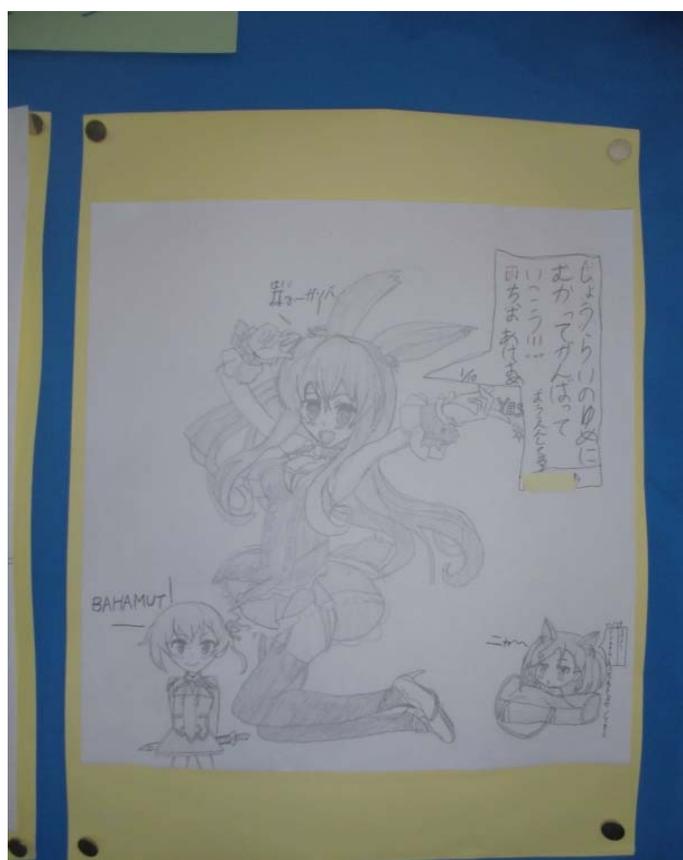
⑦先輩・後輩の関係

さくら学級内でも、先輩、後輩の関係の中での育ちが見られる。学年最後の

送る会では、先輩から後輩へ、後輩から先輩へメッセージを送る。とても温かい雰囲気である。入学してからの成長ぶり、そして後輩への励まし、後輩は、これから自分たちが皆を引っばっていかねばという意気込みが感じられる。

4、おわりに

定期的、計画的に行うようになって3年目である。どの生徒も成長や変化が見られた。さくら交流会で会を重ねるごとに、仲間同士の交流から共に学び、共に育ち、つながりが感じられるようになった。定期的に行うことで、自分の思いを表現する機会であると共に、仲間の互いの頑張りを認め合う機会として交流を行ってきた。クラスや集団の中では、遠慮してしまい自分を出せないことを気にしている生徒達。交流会で見せる表情はとても個性豊かである。12月の送る会では「世界に一つだけの花」を手話コーラスで発表する演目の練習に取り組んでいる。「世界に一つだけの花」自分の個性の花を咲かせ輝かせてほしいと思い、これからもさくら交流会の更なる充実を図っていきたいと考えている。



先輩から後輩へのメッセージ